

生態系生産動態論分野

Ecosystem Production and Dynamics

生態系の物質生産と炭素動態および植物生理生態学的
機能の解明と利用 (<http://www.soma.kais.kyoto-u.ac.jp/>)

(および農学研究科・森林科学専攻・森林利用学分野)

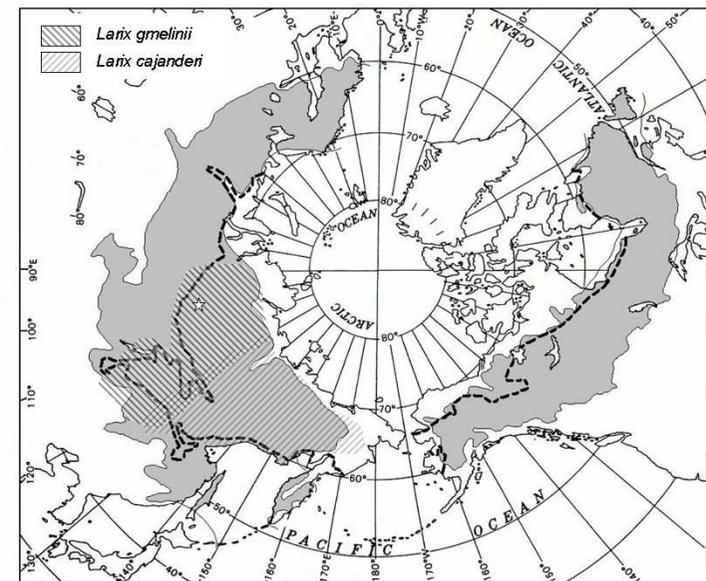
研究室の特徴: 統合的・グローバル・インターナショナル

- ▶ フィールド調査・実験に基づいたデータ収集と理論・モデル解析による統合的な研究
- ▶ 極域から熱帯まで含んだ包括的研究スタイル

亜寒帯林森林構造復元および炭素動態研究 (科研費、JSPS二国間共同研究; カナダ、フィンランド、エストニア、ロシア、アラスカ、モンゴル)、
日本の温帯林炭素動態研究 (科研費)、
アマゾン熱帯林の炭素動態研究 (科研費; ブラジル)
東南アジア熱帯林の樹木生態・生理・解剖学的研究、

▶ 教育・研究の国際化

研究室在籍の海外からの研究者・学生 (エストニア、ノルウェー、ドイツ、韓国、中国、カンボジア、ミャンマー、セネガル、バングラデシュ 各1人)
各種海外プロジェクト (カナダ・アラスカ・北欧・ロシア・ブラジルにおける海外学術調査)
海外協力大学等 (カナダ国立森林研究所北方森林研究センター、ロシア科学アカデミー・スカチョフ森林研究所、フィンランド国立天然資源研究所、ヘルシンキ大学、エストニア・タリン大学、フランス・ナンシー大学、タイ・チュラロンコン大学、ブラジル国立アマゾン環境研究所(INPA)ほか)



Research Topics

➤ 森林構造発達

森林成長の数学モデル

樹木年輪解析と過去の森林構造復元

森林構造復元にもとづいた過去の生産量と気候変動推定

➤ 生態系の炭素動態

森林、ツンドラ、マングローブ生態系などの炭素動態推定

炭素安定同位体を用いた生態系炭素動態推定

生態系純一次生産量に占める細根生産の役割

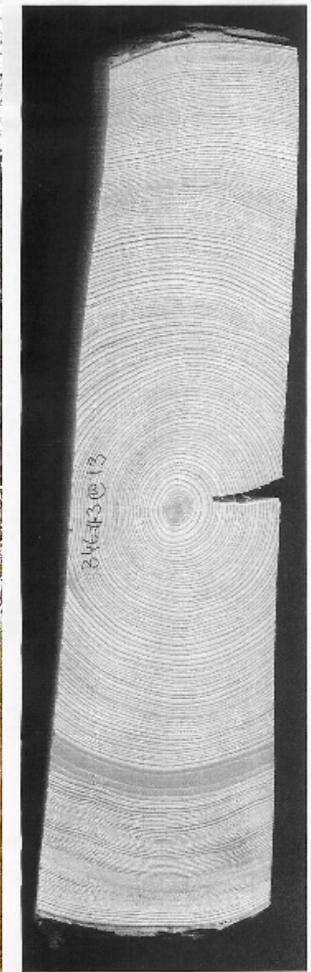
➤ 樹木の生態木材解剖学・樹木生理学

水分通導の生態生理学

木材の解剖学的特徴と水分通導

安定同位体・解剖学的特長を用いた熱帯林樹種の年輪検出

および森林構造発達様式の推定



構成員と進路

教員・研究員 7名

| | |
|-----------------|---|
| 教授 | 大澤晃 |
| 准教授 | 岡田直紀 |
| 助教 | 檀浦正子 |
| 客員教授 | Shinya Sugita (Estonia) Kari Hjelle (Norway) |
| ポスドク(博士 研究員) | Mouctar Kamara Md. Kamruzzaman |

事務補佐員 1名

学生 24名

| | |
|----------------|--------------------------------|
| 博士課程 | 7名(学堂2名) |
| 修士課程 | M2 : 9名(学堂4名) M1 : 4名(学堂1名) |
| 学部生 (農学部森林科学科) | |
| 4年生 | 4名 |

卒修生の最近の進路

- ➔ 2015年度
日本林業技術協会,
博士後期課程進学(3人)
- ➔ 2014年度
国際航業, (独)森林緑地整備センター
博士後期課程進学(2人)
- ➔ 2013年度
王子製紙(2人), エックス都市研究所
- ➔ 2012年度
兵庫県, 東洋紡, 森林総合研究所(2人)